

ホームページへの掲載	
済	3月12日 掲載予定

岐阜県立可児工業高等学校

学 校 長 佐藤 芳満

学校住所 可児市中恵土2358-1 電話0574-62-1185

1 会議の名称 学校評議員による会議（第3回）

2 会議の構成 委 員 石原 好弘 可児工業高等学校同窓会監査
〔石原・大島設計事務所代表〕
加藤 皓 可児市中恵土自治会連合会長
佐藤 千枝 可児市青少年育成推進員
徳田 泰昭 可児工業団地組合代表〔徳田工業(株)社長〕
水野 三千代 多治見法人会可児支部女性部
〔キング印刷紙工(株)取締役〕
(委員名は五十音順)

学校側 佐藤 芳満 校長
渡部 邦夫 教頭
服部 長務 教頭
古川 司朗 事務長
古田 哲 教務主任
兼松 竹司 生徒指導主事
川合 正郎 進路指導主事
小島 金也 工業科主任

3 会議の目的 学校が保護者や地域住民の信頼と期待に応えるためには、地域に開かれた学校づくりの推進が重要である。学校は家庭や地域にその運営方針を明らかにし、その理解と協力を得るとともに、学校外の有識者等の参加を得て、学校運営に対する幅広い意見を集約し、もって本校教育の一層の改善・充実に資する。

4 会議の開催 平成19年3月2日（金） 10:00～12:00
於：可児工業高等学校 校長室
委員5人、学校側8人が出席

- 1 会議の概要 全員の方へ出席いただき、最後の会を行った。今年度の取組と反省について担当者より説明し、感想とご意見をいただき、また、まとめとして本校職員や生徒に望むこと、来年度へ向けての提言していただいた。

(1) 今年度の取組と反省について (自己評価の説明から)

「学校経営について」

- 意見 1 自分の仕事上の中から今年は人材確保と、不安定な人を正社員にすることなど人材育成に追われた一年であった。何となく社会に出たという人が多いと感じているので、意志をしっかりとった人を育てることやものづくりを目指した生徒の育成が工業高校の役割ではないか。

「地域連携について」

- 意見 2 大工（日曜大工）等でガレージ工房を行っている。アイデアで勝負、改善をモットーに講師なども行っている。情報のキャッチや生徒の考え方の参考になればと思いい見学・実習を提案する。
- 意見 3 公民館活動への参加などなど定着してきている。可児工祭の大きな風船など子ども達に人気があった。是非とも来年度は地域行事・イベントへ提供して欲しい。

「学習指導について」

- 意見 4 自分の仕事の関係から感じているのは、本当にこの仕事を好きでやっていると言う人が少ないと感じている。壁に当たると乗り越えられない、粘り強さに欠ける、座って仕事をするのが苦手な子が多い。研修の機会や体験などいろんな所へ出かけてヒントを得ることが大切と思う。
- 意見 5 他校の例だが、学校行事や部活動発表などを外部施設を活用し実施していて華やかさを感じている。本校は地味な感じがするのでもっと外部へ出ることも必要では。
- 意見 6 資格取得や技能検定について充実していると思う。費用は個人もちで大変であるが資格や技能資格を取得して就職することは大切である。資格や検定は企業側へも県から推進の要望がある。会社でも奨励していることもあるので自信をもたせて欲しい。

「進路指導について」

- 意見 7 今後は大学進学希望の生徒も増えてくると思われるので、その取組を充実させることも大切ではないか。
- 意見 8 職場見学等、実際に見てくるのが一番。わかりやすく自分の中にきつと何かが残るので、こうした取組の提供を今後も進めて欲しい

「生徒指導について」

- 意見 9 青少年育成推進委員として「自分を守る力」を育てたいと思っている。挨拶運動の取組は人間関係づくりには欠かせなく、信頼関係の基礎と思う。また、本校のスローガンを掲げ地域との繋がりを強調している指導を今後も継続して欲しい。
- 意見 10 あいさつ運動やベル席など「一点集中」は良いことである。今後も継続し規律ある

生活、規範意識の高揚を目指して欲しい。

(2) 本校職員・生徒に望むこと

- 意見 1 卒業式に参列して、先生方が一生懸命日頃から生徒と接し指導されていることが良くわかった。祝電披露では恩師の先生の紹介があったとき一瞬緊張感がゆるんだ。その様子を見て、つながりの深さなどが感じ取れた。
- 意見 2 可児市の行事に、先生も生徒も積極的に参加されていた姿を見ることができた。可児川清掃でも高校生が活躍していた。環境フェスタでは、生徒が受付を担当してくれて大変好評であった。
- 意見 3 地域への関わり方はいろいろな方法があると思うが来年もよろしくお願ひしたい。
→学校全体での呼びかけ・部活動としての参加・生徒会活動としての位置づけ・工業部など、各部所で積極的に対応やアイデアを出して今後も参加したい。
- 意見 4 今の中学生は人間関係の難しさから能力を隠しているとも言われている。そういう意味で高校側はどういう生徒が入学して来るのか中学校へ出かける機会を設けて、実態をよく見てくると良い。
- 意見 5 資格取得へ今後も情熱をもって取り組んでいただきたい。

(3) 来年度へ向けての提言

- 意見 1 喫煙について、本校生徒とは限らないが以前は学校近辺や路上で高校生の喫煙を見かけた。最近はこの姿を見ることはほとんどなくなった。学校での指導や社会全体の風潮かもしれないが大変良いことと思う。
→生徒指導や保健など幅広く指導を展開していきたい。先生方の喫煙も減ってきた。
- 意見 2 青春のまっただ中、規律・規範意識の高揚に努めて欲しい。
→厳しい中にも愛情をもって指導している。本校は厳しいと思う。
- 意見 3 青少年育成の立場から、「たばこ・自転車の二人乗り・深夜徘徊」など、チラシを作って配布しながら声をかけている。最近では「高校生はどこへ行ったのか、こどもの姿がない」と言う声も聞く。青少年がたむろすることが少なくなってきた。
→不審者情報について可児市青少年推進会議で話題になったが、各校の情報を地区生徒指導担当者に連絡し、横の連携を取っている。
- 意見 4 工業高校がどのような取組をしているのか、企業人はあまり知らないかもしれない。社会に出た人の再教育をしなければならない時代でもある。工業高校をもっとアピールして企業人とのパイプを深めて欲しい。
→多くの求人を頂いている。進学・就職の両面から特色ある学校作りに反映させたい。
- 意見 5 可児工業高校がよくわかった。生徒に目標をしっかりとらせることや、自信をもって三年間過ごすことができるよう頑張ってもらいたい。

会議のまとめ

今年度最後の会であったので「学校経営・学習指導・生徒指導・進路指導・特別活動」の自己評価をもとに会を進めていただいた。特に「開かれた学校」「地域連携」「工業高校の特色」に話題が集中した。

学校経営では、地域便り「地域の皆さんへ」の創刊や、HPの更新を行事ごとに行うことや可児市主催行事への積極的な参加で地域連携を深めたことに評価を頂いた。

学習指導や生徒指導では、規律ある授業実践や規範意識の高揚へ向けて今後も努力して欲しい旨が語られた。特に「あいさつ運動」は可児市スローガン「あいさつが誇れるまちづくり」地域ぐるみで取り組む青少年育成運動の一貫でもあり、本校としても懸垂幕を利用したりして継続して実施していくこととした。

進路指導面では、学校全体で取り組んでいる資格取得や課題研究などの内容が企業側へ良く伝わるよにすることも大切とアドバイスを頂いた。

本校のよさ、授業内容や工業高校の取組についていろいろな機会をとおして積極的にアピールしていくよう提言が頂けた。

